【３】生徒の実態

指導を展開するにあたり、本年度もさまざまな方法での実態把握に努めた。調査結果から、個人および学部全体の傾向や留意点を探り、指導に生かしていくことにした。また、各実態調査の結果は、指導前と指導後を比較するための基礎資料とするため、できるだけ毎年継続していきたいと考えている。

(1) 集団編成

表－２　中学部の集団編成

学年	担任 男	担任 女	生徒 男	生徒 女	主な障害	教育歴及び略号	
1年	1	1	4	2	・ダウン症　・てんかん　・孔脳症	本校小学部～	M男　W男　N男　E男
	2		6		・視覚障害　・ウィリアムス症候群	他校より入学	Y子　O子
2年	1	1	5	1	・てんかん　・自閉症　・先天性無汗	本校小学部～	R男　Y男
	2		6		腺症　・外胚葉低形成症	他校より入学	T男　H男　T子　G男
3年	0	2	2	2	・自閉症	本校小学部～	K男　H子
	2		4		・9Pマイナス症候群	他校より入学	S男　S子

今年度、16名の中学部生徒の基礎（学級）集団の編成は、表－２に示すとおりである。学年進行・複数担任制を取り入れているが、体育・音楽は学部合同で、課題学習は学級の中で発達課題別、作業学習はコース制（手工芸・陶芸・農園）を取り入れている。また、生活単元学習は、単元により学部合同、学級を解いた縦割りグループ、学級単位と自在に組んでいる。このように、多様な集団を編成することにより、さまざまな関わり方ができるよう配慮している。

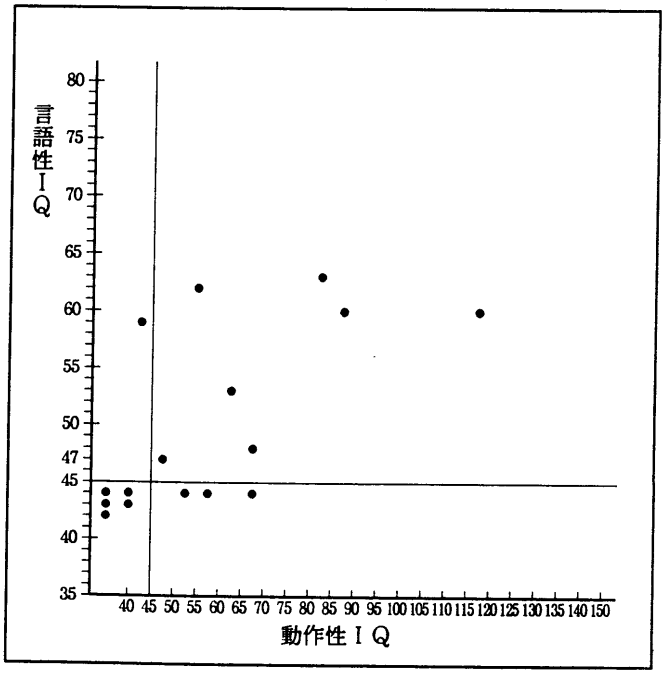
(2) ＷＩＳＣ－Ｒ知能検査（Ｈ８．７実施）

［目的］生徒の知能や言語性・動作性の個人内差を把握し、指導の手だてや方法を探る。

［考察］全ＩＱの結果は、ＩＱ40以下でＷＩＳＣ－Ｒでは測定できない生徒は４名、ＩＱ41～50は４名、ＩＱ51～75は７名、ＩＱ76以上は１名と重度から軽度まで差が大きく、ばらつきがある。

言語性ＩＱと動作性ＩＱの個人内差を見ると、右の図のように、15以上のＩＱの差がある生徒が７名おり、１名を除き、言語性より動作性のＩＱが優位となっている。従って、言語環境を整え、視覚優位であることを考慮したコミュニケーションを図るとともに、人と関わって活動する場の設定が必要である。

表－３　言語性ＩＱと動作性ＩＱの個人内差

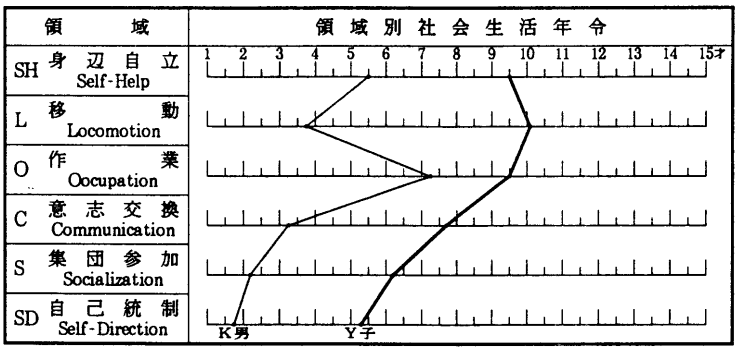


(3)　S－M社会生活能力検査(H８．７実施)

［目的］具体的な生活場面における知的な働きや技能の程度を知り、生徒の社会的生活能力を把握する。

［考察］一人ひとりの社会生活年齢(ＳＡ)については、３歳８か月～５歳未満が４名、５歳～８歳未満が４名、８歳～10歳未満が７名、10歳３か月が１名である。個々に見て行くと、Ｓ男の社会生活年齢は８歳６か月であるが、知能検査の全ＩＱにおいては47であり、それほど高くない。知的な面での遅れを本人の意欲や生活体験でカバーしながら、社会的生活能力を身につけてきている例と考えられる。

表－４　領域別社会生活年齢



そして、全般的に表－４のＫ男やＹ子のように、身辺自立や作業面に比べ、意志交換や集団参加、自己統制の領域で落ち込みが見られる生徒が多い。このような点を配慮しながら、社会化をめざす中学部の取り組みにより、さらに社会生活能力を育てていきたい。

(4)　養護・訓練及び基礎学力における実態(H8.5実施)

［目的］養護・訓練及び基礎学力の実態を把握し、課題学習における一人ひとりの最優先とされる課題を明らかにし、個人目標の設定をする。

［考察］基礎学力（国語・数学）における実態の例は表－５に示すとおりである。80頁の課題学習による実践で述べるように、養護・訓練を含めたなかからその生徒にとって最優先の課題を選び、毎日継続して取り組むなかで定着させようと考えた。生徒によって、課題は養護・訓練に重きがおかれる者、基礎学力におかれる者、両方に取り組む必要がある者とさまざまである。

表－５　基礎学力（国語・数学）の実態例

名前	国語		数学	
	言語・文字の習得	理解・表現(話す聞く)	数と計算	お金・時計
Ｓ男	・漢字３年：５割程度 ・知っている漢字があってもひらがなを使おうとする。	・早口で聞き取りにくい。 ・助詞が正しく使えない。	・100までの加減法を筆算でするが、減法が不確実である。	・1000円までのおつりのいる買い物ができる。 ・分針が読める。
Ｈ子	・漢字の読みは２年程度だが、書くのは１年程度である。 ・筆圧が弱く読みにくい。	・書き言葉と話言葉が混同する。 ・空想したことを書き易い。	・20までの加減法を数え足しで計算する。 ・50までの数唱ができる。	・○時が読める。 ・生活と結びついた時間は分かる。
Ｓ子	・漢字３年：９割程度だが、誤りがやや多い。	。簡単な文章の理解ができる。 ・一つのこと繰り返し何度も書く。	・100までの加減法を筆算でする。 ・かけざん九九が言える。	・1000円までの金種が分かり、お釣りのいる買い物ができる。 ・分針が読める。
Ｋ男	・ひらがな　８割程度 ・なぞり書きやワープロができる。	・ささやくような声で発音不明瞭 ・言葉をまねて言う。	・100までの数の順が分かる。 ・20までの加減法ができる。	・○時が読める。

（高木）

表－6　《自分づくりの発達段階表》「自分なりのめあてを持って、自らの活動を楽しむ子」の姿をめざして

自分づくりの段階			生徒名 1年	生徒名 2年	生徒名 3年	めざす楽しんでいる姿	集団の中でのねらい
・自己客観視 （9歳～）	※多面的に自分を見る ※大人扱いが当然	・「～だから～だ」と論拠のある考え方ができ、実現しようと努力する。 ・相手の立場を考えたり、他人のことから自分を見直したりすることができる。				・得意なこと、苦手なことを自分で判断して選択し、没頭して取り組む。（熱中する） ・好きなことを通して、より多くの人や場所での関わりや活動を楽しむ。	手本になる相手をめざして自分を高める。
・自己客観視のめばえ （5歳後半）	・自分づくりの始まり ※他律的、一面的に自分をとらえる ※大人らしくなってくる	・「もっと～したほうがよい。だからがんばろう」と意欲を持ち、目標や期待に応えて力を発揮しようとする。 ・周りの人の言動を自分なりに受け入れて、話し合ったり協力したりできる。 ・見通しを持って行動し、活動が持続できる。		H男(8－7.70) R男(8－4.51) T男(10－3.69)		・経験をもとに、よりよい方法や新しいことを考えたりして、苦しいかもしれないがやってみようとする。 ・仲間のことも考えて、自分の欲求を押さえたり譲ったりして、みんなで一緒に楽しもうとする。	友達や周りの人と活動をすることで、自己評価して満足感を楽しむ。
・自制心の形成 （5歳半） ・自制心の芽ばえ	・自我をコントロールできるもう一人の自分 ※大人になりたい	・「～だけど～しよう」と自分で理由づけをして行動する ・自分なりの理由を言うことができる。 ・自分のペースで、見通しを持って、最後までやり遂げようとする。 ・できるだけ自分でやろうとし、困ったら次の手立てを考えることができる。 ・活動の意義等を知り、意欲と責任を持つ。	M男(5－6.47) Y子(8－3.55) O子(5－8.42) E男(5－1.44)	(8－10.54) S子 G男(9－2.85) T子(9－2.52) S男 (8－6.47) H子 (5－3.40以下)		・経験をもとに、楽しかったことややってみたい（挑戦してみたい）ことが言える。（順序、理由等が自分なりに説明できる）～同じことでもよい～ ・自分なりに考えて決めためあてを持ち、できるだけ近づこうと精一杯励む。（結果は問わない） ・失敗をしても、くじけないで「またやろう」「もう一度やってみよう」としたり、「今度はこうしてみよう」と自分なりに工夫をしたりする。 ・本物にふれる楽しみや喜びを知る。	友達や周りの人と活動を共有して共感した手応えを楽しむ。
・自我の拡大・充実 （3歳半）	・もう一人の自分のできはじめ ※大人扱いを受け止める	・「～ではない～だ」という自分の思いを伝えて、一人でもする。 ・決められた範囲の中で自由に活動する。 ・友達の様子を見て何をしたらよいか気づいて、活動することができる。	N男(4－11.40以下) W男(3－8.40以下) Y男 (3－11.40以下)	K男 (4－0.52)		・自分の思いを伝えて分かってもらうことに満足する。 ・思い切り自由に活動するおもしろさを知る。 ・少しでもルールを分かって守ろうとし、集団の中での活動を楽しむ。	友達や周りの人といること自体を楽しむ。
・自我の誕生 （1歳半）	・感情・意欲の育ち	・「～だ」という自分の思いを伝えて、集団の中でも行動する。　・模倣する。				・模倣してその活動自体を楽しむ。 ・結果を知って喜んだり、残念がったりする。	人の真似をして楽しむ。

※（ ）内の数値は左がＳＡ（Ｓ－Ｍ社会生活能力検査による）右がＩＱ（ＷＩＳＣ－Ｒ）

表－7　個に応じた支援と題材選び

		生徒名	めざす楽しんでいる姿 つけたい力	支援の工夫・ポイント・共通理解事項 言葉（声かけ、指示、応答等）	行動（手助け、立つ位置、対応等）	その他	適切な題材
自分づくりの段階	自我の拡大・充実	K　男	友達といっしょにいることを楽しみにする子 一人で行動することに自信を持つ　友達と同じことをして一緒に行動する	・短い言葉で、はっきりと言う。(指示、励まし、禁止等)「トイレ」「やって」「がんばれ」「よし」 ・目的や内容に応じて声のトーン、調子を変えて話す。(メリハリをつける)	・１メートル以内に近寄らないで、肌の接触を避ける。(触りたくない、触らせたくない、異性に対する自覚を持たせたい) ・表情やジェスチャーにメリハリをつける。	・やりとりを発展させ、本人の気持ちを確認するには、行動の意味をたずねてやる。「なに？」「なんですか？」と聞き返す。 ・“ジャンプ”許容範囲がある。(ストレス発散)	・学級、グループの活動（小集団）
		W　男	今の活動に力いっぱい取り組み人との関わりを楽しむ子 基本的生活習慣の定着　集中力 上半身の筋力及び手指機能の向上　人と関わる力	・手や頭を振っている時は、解放されて何も考えていないので集中させたい時は、「何ですか」と話しかけ、まず、やめさせる。 ・選択肢を与えて、声に出して言わせる。	・やたら人の名前を呼ぶ時は遊びなので、無視をする。同じことをずっとしゃべっている時は意図的に会話を進める。 ・食事中に手や頭を振る時は汚いのでやめさせる。	・段階を追った指導をし(手立てを積む)、段度りや見通しが持てるようになるまで追い込む。(行動、学習のパターン化)	・素材の工夫（手先が不器用） ・粗大な道具
	自制心の芽生え	O　子	新しいことにも挑戦し、いろいろな活動を楽しむ子 体力　基本的生活習慣の確立　空間認知力 協調性　調整力	・必ず理由をたずね、自分の口で言わせる。 ・言葉使いが悪い時は、手本を見せて真似をさせる。	・言動すべてにおいて反復させて、確認する。 ・経験が少なく不器用なので、やり方を丁寧に教えて身につけさせる。(繰り返す) ・賞賛、期待感などは効果的。	・生返事に要注意。 ・なにおいても正確さを欠くので、必ず確認する。	・なんでも挑戦 ・好きな活動と好きでない活動の組み合わせ
	自制心の形成	S　男	友達の関わりを楽しみにし、進んで活動する子 相手の話を聞く態度　正しい応答の仕方 協調性　責任感　意欲	・まず、顔を見て「下田君」と声かけし、ゆっくりと会話を進める。(短い言葉で) ・応答のパターンを決めてやりとりの練習をする。慣れて来たら少しずつ揺らす。	・オーム返しをしても根気強く待つ。本当に困ったら選択肢やヒントを与えたり、アドバイスをしたりする。 ・復唱させて自分の言動の確認をさせる。	・応対する時は、指導者は気持ちや状況を表す言葉を教えてやり、意図して使って復唱させる…パターン化する。	・パターンを崩す ・いろいろな素材に挑戦
	自己客観視の芽生え	T　男	自分の行動に見通しを持ち、正しく判断しながら行動する子 基礎体力(バランス、調整力)　リーダー性　寛容さ 言語に対する知識　素直な態度　正しい応答の仕方	・思い込みや勝手な判断で話すので、順序だてて事実を正しく言わせる。 ・言葉の意味を教え、意図を理解させる。 ・理由を言わせて、思いを引き出す。	・任せ切らないで、必ず確認する。 ・勝手に判断して行動しないで、相談や報告をさせ、親身になって対応する。 ・不適切な言動はその場で指摘し訂正させる	・見守る場面と指導する場面を明確にして、目的や意図が本人にも分かるようにする。(思いの引き出し、言葉の知識、手段や方法を具体的に正しく教える等)	身近な生活の中に生かせること（実用的なもの）
		R　男	自信を持って取り組み、工夫しながら意欲的に活動する子 基礎学力(ひらがなの読み書き、簡単な計算、買い物) 体力　持久力　勝手な判断をしないで人にたずねる態度	・発音が不明瞭だが、分からない時は言い直しをさせる。(ゆっくり、一音ずつ) ・分かるときは「とてもよく分かる」と言って自信を持たせる。	・よく聞かずに勝手に行動するので、はっきりと指示し、間違いはその場で指摘。 ・やり直しや言い直しに対しては賞賛をし励みにさせる。(方法を知り、意欲を持つ)	・文字の習得に努力させる。(苦手なので避けたがるが、根気強く対応すると力を発揮するので、あきらめずに対応する) ・体を動かすことを勧める。	機械、道具の活用及び正しい使い方の習得リーダー

表－8　楽しんでいる具体的な姿

生徒が学校生活のどのような場面で特に楽しんでいるのかを、担任の観察でまとめてみた。

	具体的な姿や楽しめる要因	人　　数
生活単元学習	買い物・調理等生活に密着した学習は失敗しながらでも、繰り返し経験を積んで実践力が身に付く（H子）	G男　H子　S子　M男 Y子　O子
体　　育	体を動かすことが好きで、友だちと競争することに意欲を見せる（M男） 伸び伸びと楽しんで泳ぐ（S子）	M男　S子　O子　S男
音　　楽	曲によって好き嫌いがあるが、全般的には好きで、自由に振りを付けて踊ったり変調して演奏したりする（G男）	G男　H男　H子　N男 W男　S子　K男　O子
美　　術	次々と空想が膨らみ、自分の思いをどんどん描いていく（H子）絵の中に言葉を書き込むのが好き（O子）	G男　H子　W男　Y子 S男　Y男　O子　K男
作業学習	時間内にできる作業量のめあてを持って努力し達成した喜びをもつ（Y子） 慣れた仕事を好んでする（W男）	G男　K男　H子　W男 Y子　H子　S子　R男
課題学習	パソコンが好きで自分で操作することを楽しむ（T男）切り絵に集中して取り組む（K男）	R男　H男　Y男　K男
クラブ	他学年、他学部の生徒と一緒の活動に喜びを持つ（Y子）音楽クラブで好きなカラオケを楽しむ（N男）	R男　H子　Y子　M男
委員会	委員会の役に付くのが好きで、立候補して決まったら、責任を持ってしようとする（G男）	G男　S子
休憩時間	話のわかる相手をさがし、自分の好みのテレビ番組の話をする（Y子）独り言を言い、自分の世界に入る（H子）	G男　R男　O子　Y子 Y男　S子　M男　K男 S男　N男
給　　食	食べることが好きで、時間があれば残さず食べる　先生や友だちとのパターン化した会話を楽しむ（N男）	E男　W男　T男　O子 N男
行事（宿泊・校外学習）	どこかに行って何かをすることや、友だちと一緒であることが、とにかくうれしい　乗り物が好き（S子）	N男　R男　H子　W男 Y子　S子
交流学習	計画や事前学習をしていくことで期待し、楽しみを持ち、知っている友だちに会えるのが楽しみ（Y子）	N男　R男　H男　S男 M男
そ　の　他	友だちのまねをしたり、自分のふざけに友だちを誘ったりして、友だちとの関わりを楽しんでいる（G男）	G男　Y男　Y子　W男 S子　M男

生徒が教科・領域を限らず、いろいろな活動を楽しんでいる実態がうかんでいる。

《生徒の楽しんでいる姿》～生徒へのアンケート結果より～

1．学校は楽しい？（ほとんどの生徒が「はい」）

「はい」《理由》スクーターボード、シュート、プリント、農園、体育、給食、元気に通っているから、ぐるぐる回りが好き、おしゃべり、友だちがいる、自転車がある、勉強が好き

「いいえ」《理由》手に重りをつけて腕の力をつけるのが嫌い、うるさい人がいる

2．学校の学習で、得意なことは？

（音楽、美術、農園、作業、体育、ダンス、サッカー、水泳、あやとび、クラブ、委員会）

3．学校でしてみたいことは？

（ビデオ鑑賞、工作、歌を聴くこと、腕相撲、あっち向いてホイなどのゲーム、音楽）

4．家は楽しい？

「はい」《理由》弟といること、弟とゲームをする、家の手伝い、テレビゲーム、ファミコン、ビデオがたくさん見られるから、家族と団欒すること、自由だから

「いいえ」《理由》草取りが嫌い

5．家で何をするのが楽しいですか？

（テレビ、ビデオ、ファミコン、マンガを読む、絵をかく、おもちゃで遊ぶ、折り紙や工作、ワープロ、手伝い、家の人と話す、ダンス、買い物）

6．家族といっしょにいるのが好き？　一人でいるのが好き？

1／3の生徒が「一人でいるのが好き」と答えた。

7．家で（学校以外で）してみたいことは？

（ダンス練習、目の運動、手の運動、ファミコンをもっとしたい、一輪車に乗ってみたい、手伝い、プリント、散髪、仕事）

8．どこか行ってみたいところは？

（おおち谷、ジャスコ、東京－漫画家になるため、海やホテル）

※生活や楽しみに拡がりは見られないが、自分なりに楽しいと思うものは持っている。家で「一人でいるのがいい」と答えた生徒が意外に多かった。

《保護者から見た生徒の楽しんでいる姿》

～保護者へのアンケート結果より～

1．楽しんで学校に通っていますか？　（ほとんどが「はい」）

「はい」《理由》表情がよい、進んで支度をする、ぐずらない、学校の学習や友達のことをよく話す、「学校は楽しい」と言う、「学校に行くな」と言うと「いやだ」と答える、学校が生活の一部になっている

「どちらともいえない」《理由》「行きたくない、休む」ということがある。いやなことがあると逃げようとする。

2．家でどんなことをして楽しんでいますか。（多い順）

（テレビ、食べること、ファミコン、マンガを読む、ビデオ、買い物、料理・お菓子作り、折り紙、手芸、工作－プラモデル、魚採り、散歩、おもちゃ遊び－ミニカープール、サイクリング、ゲームボーイ、絵を描く、父親と野球、音楽を聴く）

3．楽しんでいる姿についてどう思われますか。

・充実しているのでよい（3）
・今の楽しみ方も認めたいが、もっと充実した楽しみ方をさせたい。（9）
・主体的に楽しんでいるとは思えない。（することがないから、しかたなく、など）（1）

4．楽しみや経験を拡げるために、地域・家庭でさせてみたいと思われることは？

・地域の行事に参加して、行事を楽しみにしたり、知った人を増やしたい
・同年代の子どもたちと関わらせたい
・家族との関わりをもう少し多くしたい（特に父親）
・家族の一員としての役割を話し合い、責任を持ってやり遂げる力をつけたい。

5．将来の生活に望むことは何ですか。（多い順）

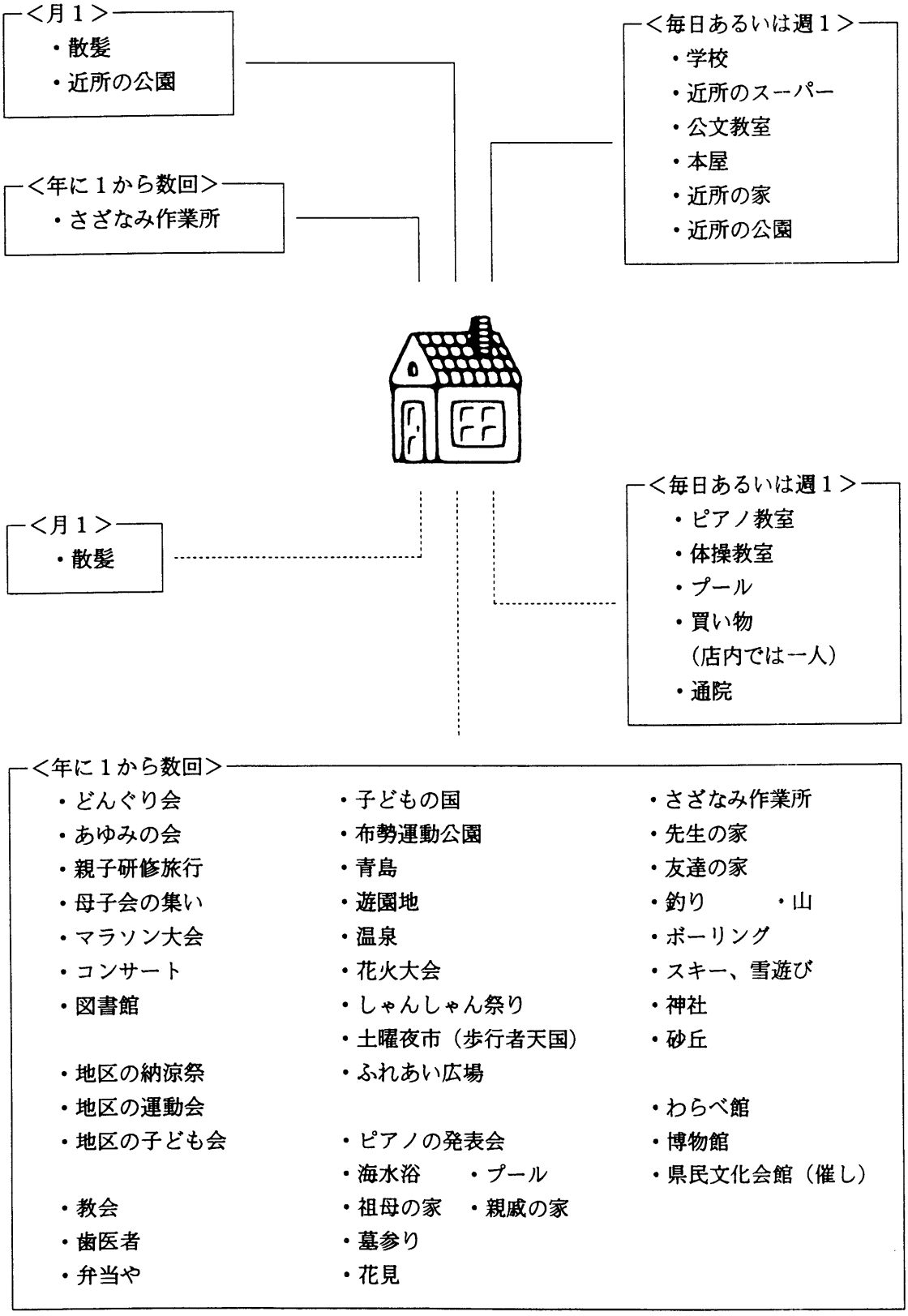
（自分にあった職場、生きがいや楽しみのある生活、人との関わりを持つ、トラブル解決の力、独り立ち、援助施設を利用した一人の人間としての生活）

6．5について考えたとき、つけたい力は何ですか。（多い順）

（自制心・がまん、持続力・粘り強さ、体力、判断力、社会適応の力、思いやりの心集中力、協調性、身辺処理の力、コミュニケーションの力、知識、礼儀作法）

※　保護者の多くは、子どもの自分なりの楽しみ方を認めながらも、楽しみをもっと充実したものにしたいという願いを持っている。しかし、実際には積極的に活動しようとする家庭は少なく、具体的に家庭で何かに取り組もうとする姿勢は薄い。

そこで、日常的に行っている活動にも改めて目を向けて目的意識を持ってもらったり、目的を持って出掛けたことを記録してもらったりして、次頁の生活地図を作成して生徒たちの生活の拡がりの実態を把握した。

図－1　《生　活　地　図　～生活リズム調査より～》　H8.6
※予定も含む

——————　ひとりで
……　誰かといっしょ